

都市構造可視化ツールの活用に向けて



所属名 千代田区 景観・都市計画課

i-都市交流会議2022

1

1.課内共有

課内で都市構造可視化ツールを紹介しました



都市構造可視化サイトや研修の主な内容を紹介しました。
3Dマウスは上手に使える人と苦手な人がいるようです。
どのような実務に使えるそうか活発な意見交換を行いました。

i-都市交流会議2022

2

2.都市構造可視化ツールに対する意見

課内のメンバーから色々な意見がでました

■良い意見

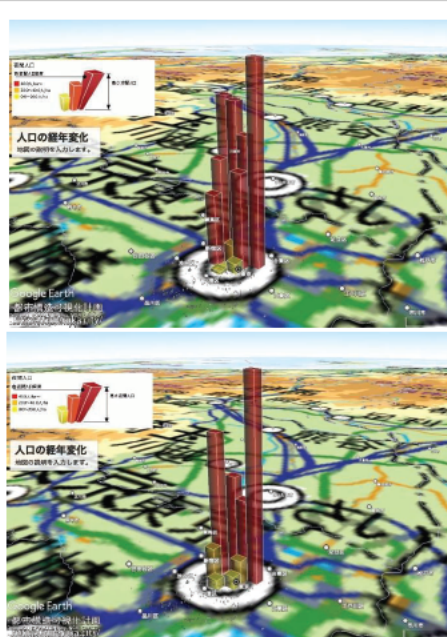
- ・ Google Earth Proの街並みは、区民の方に伝わりやすい
- ・ データを直観的にみることができそう
- ・ すでに3Dでみられるデータが公開されていることを知らなかった
- ・ 広域的な比較する場合はわかりやすそう

■疑問点等

- ・ (2Dデータと比べた場合) 3Dのデータのメリットがわかりづらい
- ・ データを重ねることでGoogle Earth Proの街並みが消えてしまっている
- ・ 千代田区は面積が小さいため、データのメッシュが大きすぎる
- ・ 活用方法がすぐに浮かばない
- ・ PLATEAUとの違いは何か

3.千代田区のデータを可視化する①

都市構造可視化サイトから千代田区のデータを確認しました



人口の経年変化

1970年



2000年

2022年

2050年

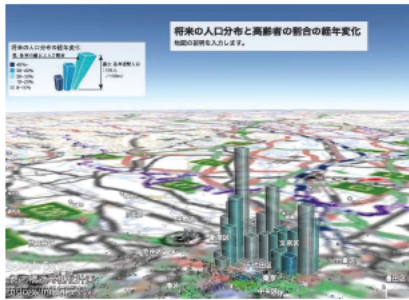
2000年に人口が36000人にまで減少し、その後様々な施策で人口回復に取り組み、現在6万人となっており、今後
も増加していく予想です。人口の増減については、直観的にわかりやく読み取れました。一方、人口の数値につい
ては表示されないため、別途説明が必要です。

補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

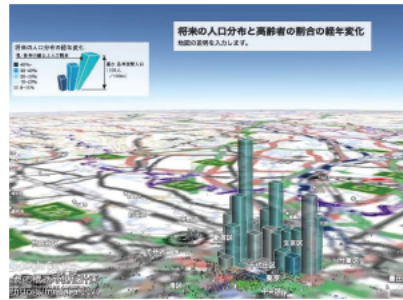
4.千代田区のデータを可視化する②

都市構造可視化サイトから千代田区のデータを確認しました

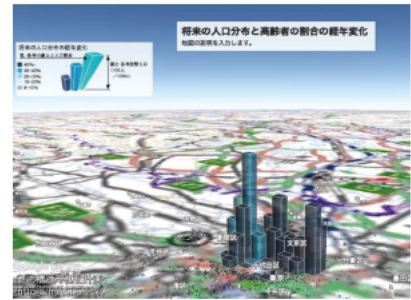
将来の人口分布と高齢者の割合の経年変化



2010年

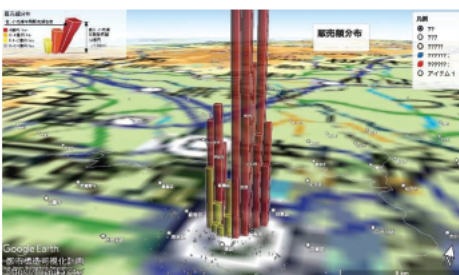


2022年



2050年

将来的に神田地域の色が濃くなっており、高齢化が進んでいくことが、地図に落とし込むこととで、地域ごとの特性がわかりやすく表現されています。



販売額分布

データによってはグラフが長くなりすぎてしまい、全体像がなかなかわからないものもありました。このようなデータは区単体ではなく、広域的な比較をする際有効だと思います。

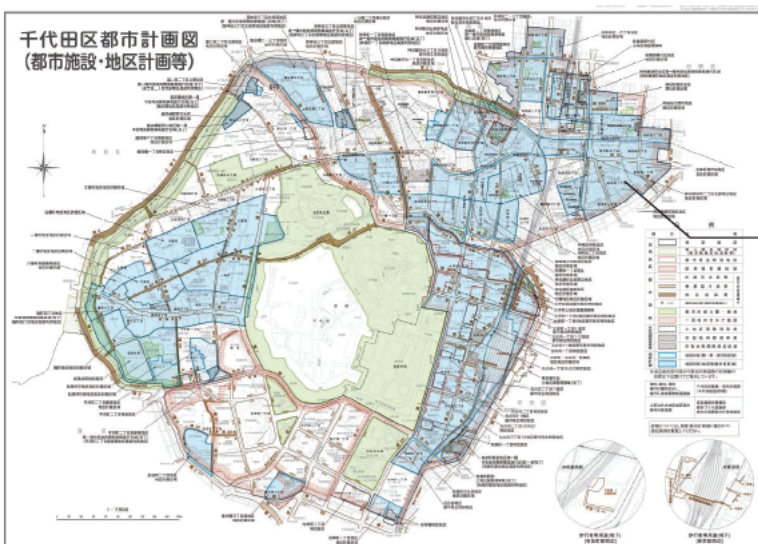
補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

5.千代田区での活用方法の検討

地区計画のデータの可視化

千代田区では41地区の地区計画が定められており、届出のデータ（用途等）を可視化することで地域の特性を把握するのに役立つのではないかと。

住宅誘導型の地区計画（用途別容積型）と一般型地区計画、地区計画がかかっていない地域では、建物用途や人口増加に変化があるか、検討できるのではないかと。



地区計画策定地区（水色の箇所）

千代田区都市計画図

6. 今後の課題

実務で利用していくための課題のまとめ

- ・どのようなデータが3Dに向いているか検討する必要がある。
- ・都市構造の可視化ツール（PLATEAU、GIS等）のうち、どのシステムを使うと効果的か判断する必要がある。
- ・システムを使える職員を増やす。
- ・色々な活用事例を参考にして、千代田区での活用方法の検討する必要がある。
- ・今回貸出いただいたスペックの高いパソコンや、3Dマウスなど、当課では所有していないため、今後継続利用する場合は同様のものを購入する必要がある。

研修の感想

- ・貴重な研修の機会をありがとうございました。3Dデータ等について、利用を推進する必要があると思いつつ、具体的な方法がわからなかったもので、勉強になりました。テキストも丁寧でわかりやすかったです。
- ・色々なシステムを使ってKMLデータを作る作業は難しく、使いこなすまでは時間がかかりそうです。

千代田区

都市の紹介

皇居を中心とし、古書店やスポーツ店が集積する神保町エリア、番町の住宅街、秋葉原の電気街、大手町・丸の内・有楽町エリアのオフィス街、霞が関の官庁エリアなど、様々な個性あるまちが集積しています。



令和3年5月に都市計画マスタープランが新しくなりました！